

追悼



石川 弘先生を偲んで

長尾 徹

石川弘先生は、2018年11月12日 86歳をもって永眠されました。

先ず、ご略歴を簡単に紹介します。1955年千葉大学工学部工業意匠学科（3回生）卒業、同年に松下電器産業（株）中央研究所意匠部研究課に奉職され、黎明期の家電製品デザイナーとして活躍されました。その間に1958年第6回毎日工業デザインコンクール特選1席（ポータブルTV・共作）や、松下電器製品で初のGマーク選定となるポータブルミシンなど多くの作品を手がけられました。1961年に助手として母校に戻られ、1998年にご定年により退職、千葉大学から名誉教授を授与されておられます。大学教員となられてからも、教育・研究とともに実践的なデザイン提案を継続され、様々なデザインコンペ入賞やGマーク製品を世に送り出されていらっしゃいました。また、先生は何冊かの著書（単著）を残されております。工業デザインの概念をまとめた「工業デザイン計画」（1967年、美術出版社）、工業デザイン教育プロセスと実践をまとめた「工業デザインプログラム」（1973年、美術出版社）やデザイナーの活動をわかりやすく紹介した「インダストリアルデザイナーになるには」（1994年、ペリかん社）はインターネットの無い時代に、工業デザインを学ぼうとする高校生にとって重要な情報源でした。訃報を受け取った卒業生からもデザイナーを志し進路決定に非常に役にたったとの声がありました。

私が先生の訃報を奥様からいただいたのは、地方の高校での模擬授業に出張する羽田空港のラウンジでした。「新しいデザインの考え方」というテーマで、デザインを知らない高校生に講義するので、話の順番に気を使って資料が中々纏まっていませんでした。結局、何故デザインを学んでみようと思ったのか、そして石川先生の著書を読んで千葉大工業意匠学科を目指そうとしたか、から話そうと思っていた最中の訃報でした。私に連絡するようにとの書き置きがあったと言うことで、ここ数年は季節のご挨拶くらいでお会いしていなかったのが非常に悔やまれました。

私が先生の研究室「設備機器計画」通称9講座にお世話になった時は、石川先生の他、故井村五郎先生（2005年12月亡）と故藤盛啓治先生（2018年12月11日ご逝去）の3名の先生にお世話になったのですが、石川先生と藤盛先生が相次いでお亡くなりになり、何とも言えない喪失感を感じています。その頃の石川先生は50代半ばで大学教員としては完成期に入っていたので、工業デザインの実践からは少し距離を置いて、工業デザインの概念をまとめる模索をされており、大学院講義では主にそのお考えを講義されていたと思いますが、当時の私には難しいものであったと記憶しています。

それ以前、先生が短大の教員だった頃に学生や有志の方々と、TACO（Technick and Art of Central Oudience）という創作グループを結成し積極的に実践的なデザイン活動やデザイン教育の工夫をされていたと聞いていました。そのシンボルマークのペナントが先生の研究室に飾られており、「何でしょうか」と質問した折にTACOのお話を伺った記憶があります。そのTACOの実践と教育の二つの活動を基に書かれたのが前出の「工業デザインプログラム」です。常に工業意匠（学）を追及されていた先生を偲ぶにあたり、私見で僭越ですが、この本を改めて簡単にご紹介する事で、追悼の代わりとさせていただきます。

まず、この本は全体構成として工業デザインのプロセスとその教育プロセスを体系化しようとしている事が、もっとも評価されるべき点だと考えます。

先生はIDの実行を二つの断面でモデル化しています。実行内容として目的の構成要素からなる横断面と目的に近づく時間経過のプロセスの縦断面です。いわゆるダブルダイヤモンドを立体化したイメージとも見えます。

また価値工学や創造工学などの要素も取り込みIDのプロセスを実践的事例で示しています。そしてIDを学ぶためのカリキュラム構造をデザイナーの職能範囲と合わせて視覚化しています。それは、基礎意匠→基礎製品意匠→製品意匠→工業意匠の各段階での学習領域を明確化し、学ぶべきところを理解させ演習を行わせるように表現されています。執筆された時の先生のご年齢を遥かに超えた私が見ると細かい部分ではもう少しと思う部分があるのも事実です。45年も前の事例ですので古いと感じるのは当たり前ですし、デザインが今よりも単純だった時代と言ってもしまえば簡単ですが、本質については現在でも全く通用するものだと考えます。現在はデザイン領域が広がり様々なフレームワークや方法論があります。これらを実践することがそのまま教育になる訳ではなく、どのようにすれば良いか模索している者として、工業意匠教育を追及されていた、先生が本当に言いたかったことが何かについて討議できなかったことが悔やまれます。

ここに石川弘先生のご冥福をお祈り申し上げます。

*工業意匠、工業デザイン、IDを併用しましたが話の流れに合わせて先生が使われていた表現をそのまま用いました。



平不二夫先生を偲んで

蓮見 孝

平成最後の「師走」10日に、我が恩師である平不二夫先生は、まさに走り去るようにご逝去されました。肺癌により緩和病棟に入院された5日後のこと、享年84才でした。

私が東京教育大学に1浪で入学した昭和42年（1967年）は、14才先輩の平先生が助手として赴任された年でもありました。安保反対の大学紛争が、筑波移転反対闘争と相乗して大きな炎のように燃えさかった頃のことです。先生は、授業もままならない状況に戸惑う新入生たちを研究室に招き入れ、家具の国際コンペ応募や大阪万博日本館の家具づくりなどさまざまなプロジェクト志向教育（PBL）の場を用意し、大手各社に勤務する先輩デザイナーたちを呼び寄せながら学生たちと論じ合える（呑み合える？）場をつくって下さいました。50年以上も前に最先端のデザイン教育を実践されていたのです。

先生は昭和34年に東京教育大学を卒業後、(株)ヤシカに入社されましたが、フリーな活動を求めて建築デザイン事務所を起業されるなど活発な（ヤンチャな）活動を展開されていました。その活力を期待されて、大学の紛争対策教育をまかされたようです。その後の筑波移転にあたっては、移転構想計画（「青表紙」と呼ばれる）の策定とその実現にキーパーソンとして参画され、屋外デザインをまかされました。当時を偲ぶ平デザインの街路灯が、今も筑波大学キャンパスに多数残されています。

先生は、筑波移転に伴う都市デザインに携わられた経験から「環境デザイン」の重要性を強く認識され、筑波大学芸術専門学群における環境デザインコースの設置と運営に邁進されました。そしてその後も、芸術研究科長や全学の評議員などの要職を歴任されました。

先生のご専門である環境デザインは、大型団地が各地に建設され、地域総合計画や都市計画の重要性が強く認識されるようになった1970年代以降に注目を集め、先生はその先頭に立たれました。大阪万博や筑波万博、東京国際見本市など取り組まれた作品は数多くありますが、上越市中心地区再開発基本計画及び謙信公広場基本計画は、主体となって取り組まれた代表作といえるでしょう。

研究活動では、日本デザイン学会理事や公共の色彩を考える会理事などを歴任されるとともに、福岡市や仙台市の街並み色彩計画策定などの実務を通して得た知見を多くの著書・論文としてまとめられました。

半世紀も前のことになりますが、東京教育大学時代の日々は紛争に明け暮れ、授業や研究はほとんど休止状態になっていました。それでも学生と教員の学級（学究）コミュニティは、まるで“ムーミン谷”のように平和だったのです。次世代の人材を守り育てることが残された最後の命題になっていた大学では、日夜に渡る共同生活での活発な議論や制作活動を通して、多様な価値観や方法論や技法などが、しっかりと伝承されていたように思います。ある時先生は、くわえタバコでソファに座り、薄い石膏板で小さな灰皿のモデルをつくりながら、デザインについて論じられていました。ところが、もう少しで完成というところで、石膏板がパキッと割れてしまったのです。それでも平然と新しいモデルづくりを始める先生を見ながら、大人の余裕に感じ入り、動じない姿勢の大切さをキモに命じたのは私だけではなかったでしょう。

私生活に関してもさまざまな指導を受けました。「嫁さんはナ、できるだけ遠くからもらえ。勢いよく飛び跳ねている娘がいいゾ」。これは先生が、最良の伴侶として先生の生涯を支えられた佳子さまを見初められた理由だったようなのですが、それに素直に従った私も、お陰様で良縁に恵まれました。

私は1991年に、20年間務めた会社を辞め、筑波大学の教員として新たな人生を始めました。公務員宿舍の部屋探しから大学教員の心得まで、全てにわたって平先生のご支援をいただくことができました。その時の先生の名言の数々を忘れることはできません。ある時、東京暮らしが長かった私が、「つくばの闇夜は恐ろしい」と嘆くと、先生は飄々と呟かれました、「夜は暗いんじゃ……」。

今大学ではノルマによる運営強化や実利的な教育志向が強まり、作想的には醸し出すことができない大学の文化的伝統や資産が色褪せつつあるように思えます。みんなで放吟していた、「人も知る茗溪の水よし潤れよ濁さんよりは」という、世を憂う前身校の古い寮歌が耳の中に響いてきます。先生に頼って生きてきた私は、また一步最年長に近づき、大学との距離も離れつつありますが、気合いを入れ直してもう少し頑張らねばと思います。

先生は、亡くなる寸前まで、新たな著書の出版をめざし執筆に専念されていました。そして、「和風」に着目されたデザイン論の貴重な原稿やノートが遺されました。先生のデザイン活動は、止まることなく悠々と“現在進行形”のまま生きています。人間味あふれる先生の想いが込められたご著書が出版される日を、心待ちにしています。

平不二夫先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。



藤盛啓治先生を偲んで

名誉会員 藤盛啓治先生におかれましては、2018（平成30）年12月11日、87歳で神のもとに旅立たれました。ご冥福をお祈り申し上げます。

阿部眞理

ご略歴：

- 1931（昭和6）年 秋田県能代市に生まれる
- 1954（昭和29）年 千葉大学意匠学科卒業
- 1954（昭和29）年 日本コロンビア株式会社技術部意匠設計係意匠設計主幹
- 1959（昭和34）年～ 千葉大学工業短期大学部助手、講師、助教授
- 1976（昭和51）年 千葉大学講師
- 1987（昭和62）年～ 拓殖大学助教授、教授
- 2001（平成13）年 拓殖大学定年退職

拓殖大学 名誉教授

日本デザイン学会 名誉会員、日本インダストリアルデザイナー協会 名誉会員
一般財団法人家具の博物館 理事

拓殖大学においてご指導いただきましたご恩に感謝し弔文を供えさせていただきます。

1987年、拓殖大学に工学部工業デザイン学科（現 デザイン学科）が設立され、先生は前任校の千葉大学から教育・研究の場を拓殖大学に移されました。以来、先生が2001年3月に定年退職されるまでの15年間に同学科機器設計研究室にて研究・教育等々を共にさせていただきました。大学や学生に対する姿勢をご教授いただき、未熟な私を導いてくださいましたことを心から感謝しております。また、退職されてからもご教授いただきたいことは山とあり、その都度、変わらずご指導いただきました。

ここで先生のデザインへの功績を振り返ってみたいと思います。先生は、1950年に千葉大学に入学され、工業デザインを学ばれました。1954年、日本コロンビア株式会社に入社され、卓上型ラジオ、家庭用テレビ、コンソール型アンサンブルステレオ等々、数々のデザインを手掛けられましたが、幾度となく社

長賞を受けられたと当時の同僚の方々から聞いております。その他、リッカー株式会社製の卓上型ミシンはニューヨーク万国博覧会（1965年）に出品され、寝室用システム収納家具は第10回全国有料家具展（1966年）において社団法人木製品技術協会会長賞を受賞されております。このように、デザイン実務においては、わが国の高度成長期の生活を支える家電製品や家具を次々とデザインされ、その業績は紹介しきれないほどです。

1959年より千葉大学、1987年からは拓殖大学で教育と研究に携われましたが、先生の研究の多くは企業との共同研究であったと言えます。先生の研究は主に家具や木材料に関するもので、「椅子の構造設計に関する基礎研究」、「曲面パネルの新成形法と製品デザインへの適用」、「圧縮木材の成形法と強度」等々があります。単に工学的なデータを提供するだけでなく、データをもとに応用例をデザインし、製品に近い形で提示するといったスタイルで研究を進めてこられました。思い出深い研究として静岡県富士宮市のA社との圧縮木材に関する研究があります。何度もA社を訪ねて研究を重ねましたが、気付けばその期間は10年以上となり、多くの教をいただきました。

先生の著書には、「中学校技術家庭科研究の手引き 木工・金工・住居編」、「インテリア製図 基礎編・応用編」（ともに文部省（現 文部科学省））、「家具の事典」（朝倉書店）等がありますが、教育書が多いことに気づかされます。授業を大切にしておられた先生の一端を垣間見た気がいたします。

日本デザイン学会においては、1983年に「家具・木工研究部会」を立ち上げられました。1985年には研究部会主催の第6回春季大会が新宿京王プラザホテルを会場として「木と人間のかかわりについて」と題し、開催されました。同時に「木と人間のかかわり展」も開催され、多くの研究例や最新の木製品等が一堂に会する大規模な春季大会は成功裡に終わったと伺っております。また、1991年に学会事務局が拓殖大学に移り、先生は1993年まで事務局長を務められました。この他、長年に亘り理事や監査を務められるなど、学会に対する先生のご尽力は現在の学会発展の礎となったと言えるでしょう。

先生のお仕事を改めて振り返ると、その教を繋いでいくという使命を感じざるを得ません。

藤盛先生は、亡くなる少し前に洗礼を受けられ、「ヨゼフ」という洗礼名を授けられたそうです。聖ヨゼフはイエスの養父ですが、その職業は大工でした。木工が得意で木をこよなく愛した藤盛先生にふさわしい洗礼名であると思つづく思います。

藤盛先生、先生が執筆された「家具の事典」はかなり傷んできました。でも、もっとボロボロになるまで使わせていただきます。

藤盛先生、先生からいただいた「その立場になればみなやり遂げられる」という言葉を忘れずにこれからも日々精進いたします。

先生から教をいただいた者を代表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

日本デザイン学会2018年度第2回運営委員会議事録

日時■2018年9月8日(土曜日)14:30~17:00

場所■慶應義塾大学 三田キャンパス(田町)
北館会議室3

出席者■松岡、小林、佐藤(弘)、蘆澤、井口、岡崎、
加藤(三)、上綱、國澤、久保(光)、杉下、田村、
永盛、生田目、平松、村上、柳澤、佐藤(浩)、
加藤(健)

欠席者■大島、工藤、國本、小山、山中、小野

1. 会長挨拶

松岡会長より挨拶がなされた。

2. 2018年度第2回、第3回理事会議事録の承認(佐藤本部副事務局長)

2018年度第2回、第3回理事会の議事録が示され、軽微な修正を除き、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 2018年度総会の振り返りについて(松岡会長)

松岡会長より、2018年度総会においては、安全面や運営面における震災への対応が十分になされ、大きな問題もなく無事に終了することができたとの説明がなされた。

4. 2018年度学会各賞選考結果について(山中担当理事(代)佐藤本部事務局長)

佐藤本部事務局長より、2018年度学会各賞選考は9月末までに審査を終えるとの説明がなされた。また、審査結果については理事のメンバーに対してメール審議することとなった。

5. 2018年度秋季企画大会について(田村担当理事)

田村担当理事より、2018年度秋季企画大会について具体的なプログラム内容について説明がなされた。学生プロボの募集、メール配信、webサイトへの情報掲載等が完了しているとの報告がなされた。多くの参加と発表申し込みを募るため、申し込み期間を9月29日まで延長することとなった。また、発表者のリストをwebサイトへ掲載することとなった。なお、開会式等の段取りについては事務局とともに検討することとなった。

6. 2019年度春季大会について(國本担当理事(代)佐藤本部事務局長)

佐藤本部事務局長より、2019年度春季大会の大会テーマや

主要なスケジュールなどの準備状況について説明がなされた。スケジュールについて、理事会の開催時間や28日のエクスカーショ以外の企画について大会校へ確認することとなった。

7. 2019年度秋季企画大会について(松岡会長)

松岡会長より、2019年度秋季大会の東北芸術工科大学での開催(11月8日~10日)を検討しているとの提案がなされ、承認された。今後、具体的な日程や内容については総合企画委員会と検討を進めていくこととなった。

8. 2019年度Designシンポジウムについて(小林実行委員長/加藤幹事)

小林実行委員長より、2019年度Designシンポジウムの準備状況について説明がなされた。2019年11月末に開催予定であり、9月末に第1回目の運営委員会を実施するとの説明がなされた。

9. 英文ジャーナルの論審移行状況について(久保論審委員長、村上副論審委員長)

久保論審委員長より、英文ジャーナルの論審移行状況と論文誌の質の向上に向けた今後の取り組みについて説明がなされた。英文ジャーナルを村上論審副委員長と柳澤論審委員が担当し、運用していくこととなった。また、論文審査委員会としては、査読期間の短縮、論文誌における投稿区分(論文、論説、報告)の見直しと新規区分の設置、およびeditorial制の確立を目指した活動を実施していくこととなった。次回の理事会から、審査中の各論文における査読工程表を示すこととなった。

10. デザイン系研究者評価インデックスの設定について(松岡会長)

松岡会長より、デザイン系研究者評価インデックスの設定について提案がなされた。議論の結果、デザイン系研究者の論文や作品を含めた包括的な評価方法の確立に向けて、学会として議論を進めていくこととなった。

11. 会員の移動について(佐藤(浩)本部副事務局長)

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、
入会:正会員8名、学生会員8名(内外国人4名)
退会:正会員4名、学生会員4名
が承認された。

12. 第2支部の活動について(平松第2支部長)

平松第2支部長より、今後の第2支部の活動計画について提案がなされた。具体的な企画については総合企画委員会と検討を進めていくこととなった。

【報告事項】

13. 特集号の進捗状況について（井口学会誌編集・出版委員長）
井口学会誌編集・出版委員長より、10月に「共創・当事者デザイン」が発行されるとの報告がなされた。また、5月発行予定の号が遅れているため、10月発行分を99号とし、「慮るデザイン」を100号とするとの説明がなされた。次年度の企画については、「QOL+を考える」と「家具のデザインと技術」を検討しているとの報告がなされた。
14. 論文集（英文ジャーナル、デザイン学研究）の進捗状況について（久保論審委員長）
久保論審委員長より、『デザイン学研究』のNo.2が1～2ヶ月ほど遅れて発行されるとの報告がなされた。また、『Journal of the Science of Design』のNo.2については11月発行を目指して準備を進めているとの説明がなされた。
15. 作品集の進捗状況について（杉下作品審査委員長）
杉下作品審査委員長より、本年度は31件の応募があり、次週より審査を開始するとの説明がなされた。

記録：佐藤（浩）

日本デザイン学会2018年度第3回運営委員会議事録

日時■2018年12月15日（土曜日）15：00～17：00

場所■慶應義塾大学 三田キャンパス（田町）

北館会議室3

出席者■松岡、小林、佐藤（弘）、蘆澤、井口、工藤、國本、久保（光）、永盛、生田目、平松、村上、柳澤、山中、池田（岳）、佐々木、両角、横溝、小野、佐藤（浩）、加藤（健）

欠席者■大島、岡崎、加藤（三）、上綱、國澤、小山、杉下、益岡

1. 会長挨拶
松岡会長より挨拶がなされた。
2. 2018年度第4回理事会議事録の承認（佐藤本部副事務局長）
2018年度第4回理事会の議事録が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 2019年度春季研究発表大会について（國本担当理事）
國本担当理事より、2019年6月28日（金）～30日（日）に

おける詳細な日程案や会場について説明がなされた。また、エクスカーション等を含め、準備を進めていくこととなった。

4. 2019年度春季研究発表大会OSについて（岡崎担当理事（代）工藤理事）

工藤理事より、2019年度春季研究発表大会OS募集について説明がなされた。例年通り、会員に向けてメール配信にて募集することとなった。合わせて研究推進委員会からも、テーマセッション募集を行うこととなった。また、研究推進委員会主導による新たな試みとして、テーマセッション内にキーノートスピーチを計画することとなった。3件程度を上限として、登壇者にはOS登壇者と同程度の優遇を検討することとなった。

5. 2019年度秋季企画大会について（柚木実行委員長（代）横溝第1支部長）

横溝第1支部長より、2019年11月8日（金）～10日（日）における日程案が2案示された。議論の結果、案2で進めていくこととなった。

6. 2020年度春季研究発表大会について（益岡担当理事（代）佐藤本部事務局長）

佐藤本部副事務局長より、2020年度春季大会の検討状況の説明がなされた。開催校内の手続きを進めている段階であり、日程は6月の下旬で調整中との報告がなされた。引き続き、検討を進めていくこととなった。

7. 2019年度春季研究発表大会演題登録サイトについて（永井概要集編集委員長（代）永盛委員）

永盛概要集編集委員より、2019年度春季研究発表大会におけるUSB概要集費用と投稿期間について説明がなされた。議論の結果、両者について承認されたが、投稿延長期間については現行（1週間）で問題ないかどうかを委員会で確認することとなった。

8. 次回理事会（2/9）の実施について（佐藤本部副事務局長）

佐藤本部副事務局長より、次回理事会の開催日について確認がなされ、次回の理事会は3月9日（土）となった。なお、OSとテーマセッションについてはメール審議となった。

9. 会員の移動について（佐藤本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

入会：正会員5名、学生会員7名（内外国人3名）

退会：正会員4名、年間購読2件

が承認された。

10. 第2支部活動報告（平松第2支部長）

平松第2支部長より、2018年度支部企画案の説明がなされた。議論の結果、詳細については引き続き、検討を進めていくこととなった。

【報告事項】

11. 論審体制刷新の進捗状況について（久保論審委員長、村上論審副委員長）

久保論審委員長より、現状の論審体制に関する報告がなされた。査読期間の短縮、投稿数の増加、英文誌のエディトリアル制度化を目的に、編集体制を英文誌と和文誌で担当を分け、論文誌の質と量の向上に向けて活動をしているとの説明がなされた。

12. Designシンポジウム2019について（小林運営委員長、加藤幹事）

小林副会長より、Designシンポジウム2019の講演募集案が示され承認された。また、Designシンポジウム2008大会と同様に学会からの補助（秋季企画大会と同程度）を行うことが承認された。日程が決まった。これから募集を開始する。前日にデザイン関連学会シンポジウムがあつて共催になる。

13. 2018年度春季大会会計報告（赤井実行委員（代）佐藤本部副事務局長）

佐藤本部副事務局長より、2018年度春季大会会計報告がなされた。

14. IASDR2019カンファレンスについて（山中担当理事）

山中担当理事より、IASDR2019カンファレンスの募集要項の説明と、学会員の積極的な投稿のお願いがなされた。

15. 第1支部活動報告（横溝第1支部長）

横溝第1支部長より、秋田で10月7日から8日の日程で開催された第1支部の研究発表大会「地もとでデザイン」の報告がなされた。

16. 第4支部研究発表会・懇親会のご案内（久保第4支部長（代）佐藤本部事務局長）

佐藤本部副事務局長より、2019年2月2日（土）に京都工芸繊維大学で第4支部の研究発表大会が開催されるとの説明がなされた。

17. デザイン学研究の進捗状況について（久保論審委員長）

久保論審委員長より、『デザイン学研究』Vol.65・No.2の刊行と審査状況の報告がなされた。遅延が発生している論文につ

いては早急に対応するとの説明がなされた。

18. 英文ジャーナルの進捗状況について（村上論審副委員長）
村上論審副委員長より、『Journal of the Science of Design』Vol.2・No.2の刊行と審査状況の報告がなされた。

19. 特集号の進捗状況について（井口学会誌編集・出版委員長（代）佐藤本部事務局長）

佐藤本部事務局長より、99号・100号の発刊遅延と次年度の企画（「QOL+を考える」「家具のデザインと技術」）の詳細について説明がなされた。

20. 作品集の進捗状況について（杉下作品審査委員長（代）小林副会長）

小林副会長より、作品集の進捗状況について報告がなされた。現在2次審査中であり、予定通りの日程で刊行するとの説明がなされた。

21. 第3支部研究発表会・懇親会のご案内（國本第3支部副支部長）

國本第3支部副支部長より、2019年3月10日（日）に名古屋市立大学で第3支部の研究発表大会が開催されるとの説明がなされた。

22. 芸術学関連学会報告（小林担当理事）

小林担当理事より、次年度のシンポジウム企画について報告がなされた。2019年6月開催を予定しており、意匠学会が中心となって進めていくとの説明がなされた。

23. 会長賞の募集について（松岡会長）

松岡会長より、各支部、研究部会からの2019年度会長賞の推薦のお願いがなされた。

記録：佐藤（浩）

日本デザイン学会2018年度第4回理事会議事録

日時■2018年10月13日（土曜日）12：00～13：00

場所■九州大学 大橋キャンパス 管理棟4階
大会議室

出席者■松岡、小林、佐藤（弘）、蘆澤、池田（美）、岡崎、
加藤（大）、工藤、國澤、國本、久保（雅）、久保
（光）、田村、生田目、平松、村上、森田、柳澤、
山中、柚木、小野、佐藤（浩）、加藤（健）

欠席者■井口、池田（岳）、大島、岡田、柿山、加藤（三）、
上綱、黄、小山、杉下、佐々木、永井、永盛、
原田、両角、横溝

名誉会員■糸井、車

1. 会長挨拶

松岡会長より挨拶がなされた。

2. 名誉会員の紹介

糸井名誉会員、車名誉会員より、挨拶と近況報告がなされた。

3. 2018年度第2回運営委員会議事録の承認（佐藤本部副事務局長）

2018年度第2回運営委員会の議事録が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

4. 各賞受賞審査結果報告（山中担当理事）

山中担当理事より、2018年度の各賞受賞の審査結果について報告がなされた。功労賞3名となったとの報告がなされた。表彰式は2019年度春季大会にて行うこととなった。

5. 2019年度春季研究発表大会について（國本担当理事）

國本担当理事より、開催日は2019年6月28日（金）～30日（日）で確定したとの報告がなされた。また、大会テーマ、主要日程、見学会、および基調講演などの説明がなされた。理事会は29日（土）の昼休みに開催予定となり、防災マップの作成も行うこととなった。

6. 2019年度秋季企画大会について（柚木実行委員）

柚木実行委員より、東北芸術工科大学で開催する2019年度秋季企画大会について説明がなされた。第1支部の研究発表会と同時開催とし、日程案としては11月8日（金）から10日（日）が示され、検討を進めていくこととなった。

7. Designシンポジウム2019について（小林副会長）

小林副会長より、Designシンポジウム2019の講演募集案が示され承認された。また、Designシンポジウム2008大会と同様に学会からの補助（秋季企画大会と同程度）を行うことが承認された。

8. 理事会交通費について（小野本部副事務局長）

小野本部副事務局長より、理事への交通補助費支給方法案が示された。審議の結果、新規補助額2案が承認され、補助を行っていくこととなった。

9. 会員の移動について（佐藤（浩）本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、
入会：正会員5名（内外国人1名）、学生会員1名、
賛助会員1件
退会：正会員1名、学生会員1名
が承認された。

10. 6th ADCにおけるアブストラクトのホームページへの掲載について（山中理事）

山中理事より、6th ADCにおける論文の情報を担保するために、Proceedingsの目次とアブストラクトを学会ホームページに掲載するとの説明がなされ、承認された。

【報告事項】

11. 学生プロポについて（小林研究推進委員長）

小林研究推進委員長より、秋季企画大会の学生プロポについて40名以上の応募があったとの報告がなされた。

12. 論文集（英文ジャーナル・デザイン学研究）の進捗状況について（久保論審委員長）

久保論審委員長より、『デザイン学研究』Vol.65のNo.2がJ-stage掲載準備中、『Journal of the Science of Design』Vol.2のNo.2の初稿完成待ちであるとの報告がなされた。また、両論文誌の審査状況の説明がなされ、遅延が発生している論文については早急に対応するとの報告がなされた。

13. 作品集の進捗状況について（杉下作品審査委員長（代）小林副会長）

小林副会長より、審査は順調に進んでおり、年度末に審査を終える予定との報告がなされた。

14. 会報の進捗状況について（井口学会誌編集・出版委員長（代）佐藤副会長）

佐藤副会長より、会報222号は最終校正段階であり、近日中にホームページへ掲載されるとの説明がなされた。

15. ホームページ更新状況について（大島広報委員（代）岡崎理事）

岡崎理事より、各支部、委員会、および部会のホームページの更新状況の報告がなされ、恒常的な更新のお願いがなされた。

16. 会長賞の募集について（松岡会長）

松岡会長より、2019年度の会長賞の募集を2019年3月に開始するとの説明がなされ、積極的な応募のお願いがなされた。

17. 日刊工業新聞社機械工業デザイン賞「日本デザイン学会賞」について（小林副会長）

小林副会長より、2018年度の日刊工業新聞社機械工業デザイン賞「日本デザイン学会賞」にジョンソン・エンド・ジョンソン手術用超音波メス「ハーモニック」が選ばれたとの報告がなされた。

18. 藝研連2019シンポジウムテーマ募集について（小林副会長）

小林副会長より、当学会からの2019年のテーマ案として、会員から要望があった「人工知能」を藝研連へ報告したとの説明がなされた。

19. 「会員の著書」への新規掲載内容（大島広報委員長（代）岡崎理事）

岡崎理事より、6件の掲載申請があり、掲載を行ったとの報告がなされた。

20. 学会ホームページのトップページの更新について（工藤理事）

工藤理事より、学会ホームページのトップページに掲載されている作品集の情報を最新の状態にしていきたいとの説明がなされた。更新については作品審査委員会が行うこととなった。

21. 学術著作権協会への対応について（佐藤本部事務局長）

佐藤本部事務局長より、学術著作権協会の契約内容の変更に伴い発生する対応について、本部事務局（佐藤本部副事務局長）で対応するとの報告がなされた。

22. ワールドECOデザインカンファレンスの案内について（佐藤本部事務局長）

佐藤本部事務局長より、中国よりWorld ECO Design Conferenceの案内が届いたとの報告がなされた。

記録：佐藤（浩）

2019年度日本デザイン学会春季大会速報

日本デザイン学会 第66回春季研究発表大会

■会場：名古屋市立大学 桜山キャンパス

■企画テーマ：「デザインとヒト：未来に向けて」

■期間：2019年6月28日（金）～30日（日）

6月28日（金）：総会、見学会

6月29日（土）：口頭発表・ポスター発表

基調講演

懇親会

6月30日（日）：口頭発表・ポスター発表

■事務局：名古屋市立大学病院 医療デザイン研究センター（担当：加藤・國本）

詳しくはWebから

<http://www.kunimoto-design.jp/jssd2019/>

2019年度総会のご案内

日本デザイン学会 会員各位

一般社団法人日本デザイン学会第3回定時社員総会を、下記のように開催いたします。会員各位におかれましては、ご出席くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

■日時：2019年6月28日（金曜日） 13:00～14:00

（受付開始12:00）

■会場：名古屋市立大学 桜山キャンパス内ホール

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地

大会ホームページ：<http://www.kunimoto-design.jp/jssd2019/>

■総会内容

1. 総会成立の確認ならびに開会宣言

2. 会長挨拶

3. 議事

・第1号議案：2018年度理事会・事業報告

・第2号議案：2018年度決算報告、会計監査報告

・第3号議案：2019年度事業計画

・第4号議案：2019年度予算案説明

4. 名誉会員賞贈呈

5. 学会各賞記念講演

6. 閉会挨拶

2019年度日本デザイン学会秋季企画大会のおしらせ

2019年度日本デザイン学会秋季企画大会は東北芸術工科大学にて開催いたします。

本大会は第1支部大会との合同開催とし、自由な研究交流を行えるような企画を検討中です。

秋の実りあふれる山形に是非お集りください。

■企画テーマ：「おいしいデザイン」

■日 程：2019年11月8日（金）～11月10日（日）

■会 場：東北芸術工科大学

デザイン学研究 作品集 24号（2018）の発行

作品審査委員会

「デザイン学研究 作品集 24号（2018）」を、電子ジャーナルとしてインターネット上のJ-Stageに掲載し、発行いたしました。「デザイン学研究 作品集」（以下 作品集）は、J-Stageに掲載公開されることにより、電子化作品論文・作品ムービーとして、世界中どこからでもアクセスが可能となっています。今年度、本号を発行するにあたり次の方々へ感謝します。デザインの優れた作品を論述などして伝えた投稿者のみなさま、複数回に審査いただいた専門審査委員の方々、そして募集から最終審査、編集までのプロセスを担った本委員会の委員と幹事のみなさま、ありがとうございました。本号は以下のURLから閲覧できます。

https://www.jstage.jst.go.jp/browse/adrrssd/24/0/_contents/-char/ja



募集・審査・編集・発行の経緯

今年度は、厳正な作品審査を経て、優れた作品20件の掲載が可能となりました。内6件に作品ムービーが添付されています。採択率は65%です。募集・審査・編集・発行の経緯を以下に記します。

住所変更はお済みですか？

住所不明で戻ってくる郵便物が
増えております。

住所変更は確実にお願いします。

届出は文書にてお願いします。

転居される方は、FAXまたは

綴じ込みの「入会届け」に

朱書きで「変更届け」と書き添えて、

事務局までご連絡ください。

ホームページ

http://jssd.jp/files/change_regular.pdf にも

様式が掲載されておりますので

ご利用ください。

退会等の届出も必ず文書にて

お願いします。

本部事務局

- ・ 6月22日：作品募集の告知（学会メール通知、大阪工業
大学での研究発表大会においてチラシ配布）
- ・ 8月31日：投稿受付（31件）
- ・ 9月8日：第1回審査会
- ・ 9月10日～10月9日：第1次審査
- ・ 10月11日：第2回審査会
- ・ 10月19日：審査結果の通知 [第1次審査結果：条件付き
採択20件、不採択11件]
- ・ 10月20日～11月15日：著者による原稿修正、受付
- ・ 11月19日～12月10日：第2次審査
- ・ 12月13日：第3回審査会
- ・ 12月21日：審査結果の通知 [第2次審査結果：採録（一
部修正依頼）：20件、不採録：0件]
- ・ 1月11日：修正原稿の受付
- ・ 1月下旬から：本委員会で編集内容協議
：本委員会より正文社へ発行作業を依頼
：正文社より著者へ校正などを依頼
：学会事務局より著者へ掲載料を請求
- ・ 2月下旬から：正文社より著者へ校了などを依頼
- ・ 3月末まで：正文社から本委員会へ発行作業終了の報告
：J-Stage上で発行

専門審査委員

泉井一浩 伊藤真市 榎本文夫 大友邦子 加藤健郎
上平崇仁 黄ロビン 関博紀 滝本成人 中島瑞季
西岡仁也 原田泰 山内貴博 横井聖宏

2018（平成30）年度 作品審査委員会

委員長 杉下哲
副委員長 小林昭世
委員 加藤大香士 上綱久美子 永盛祐介 細谷多聞
幹事 高梨令 水谷元

デザイン学研究 作品集 25号（2019）の募集

作品審査委員会

「デザイン学研究 作品集 25号（2019）」に掲載する作品を募集します。「デザイン学研究 作品集」（以下 作品集）は、デザインの優れた成果物を示すとともにそのデザインのプロセスにおける創造的で構成的な思考を外化し、それらをデザインの知として共有し交換するメディアです。作品集は「作品論文」と作品内容を示すデジタルコンテンツやインタラクティブの動画映像である「作品ムービー」で構成されています。「作品論文」のみの投稿も受け付けます。また、J-stageサイトで掲載する電子媒体でのみ発行となります。紙冊子での発行はありません。掲載する論文は4頁あるいは6頁、映像の尺は3分以内です。ふるってご投稿ください。

尚、作品は、原則として投稿の締め切り日より過去2年以内に発表されたものが対象になります。デザインの熟成や完成に時間がかかる作品については、この原則を適用しない場合がありますので、お問い合わせください。

2019年度 作品審査委員会事務局

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5

東京工芸大学芸術学部デザイン学科 杉下哲 気付

e-mail：jssd.sakuhinshu2019@gmail.com

（メールアドレスが変更されました。）

投稿は、日本デザイン学会webサイトの「論文・作品集／作品投稿案内」（jssd.jp/papers-and-works/post-works）に従い、上記メールアドレスへ行ってください。

（2018年度までのメールアドレスへの投稿は受け付けません。）

【締切り】2019年8月31日（投稿期間は8月20日から31日）

なお、2019年度は、10月下旬頃までに1次審査を、12月下旬頃までに2次審査を行い、3月上旬頃までに発行の予定です。ご協力をお願いします。

第1支部活動報告

平成30年10月7日（日）、8日（月）の2日間、秋田市内を会場に、第1支部第9回研究発表大会を開催いたしました。

大会テーマは「地もとでデザイン」。秋田は古くから産業と文化が密接に結びつき、発展してきたという歴史を有しています。例えば鉱山、銀線細工、秋田舞妓……。一見、関係のない組み合わせのようですが、いずれも産業と文化が融合し江戸時代の秋田で花開いた存在で、現在もその伝統を受け継ぐ形で様々なデザイン活動が行われています。本大会はこのような背景のもと、地域においてデザインが果たす役割、そして地方におけるデザインのあり方について考えることを目的に開催することとしました。

大会初日は秋田大学附属鉱業博物館を会場に、基調講演及び口頭研究発表を行いました。基調講演では「阿仁鉱山の技術と経済が残したものー秋田の文化と鉱業とのつながり」という題目で、秋田大学附属鉱業博物館館長で同大学院国際資源学研究所教授の今井忠男氏にご講演いただきました。今井氏は江戸時代の久保田藩による鉱山開発が単に鉱工業の範疇にとどまらず、秋田の産業と文化の融和・発展の萌芽として決定的な意義を有しており、現在も両者の共存関係が成立していることを指摘、地方におけるデザインを考える上での極めて重要な示唆をいただきました。引き続き行われた口頭研究発表では秋田公立美術大学の尾登教授を座長に、wirefactory・中島氏、宮城大学・佐々木先生の研究グループ、岩手大学・田中先生、同・今野先生、東北工業大学・両角先生の計5件の発表があり、積極的な質疑応答がなされました。夕刻からは秋田大学・大学会館を会場に懇親会を開催、参加者相互の交流や研究内容等の情報交換が積極的に行われました。特に口頭発表の際に秋田公立美術大学の学生さんによって作成されたグラフィック・レコーディングのポスターの前では充実した意見交換や議論が行われ、大いに盛り上がりました。

2日目は秋田市千秋公園・あきた文化産業施設・「旧料亭『松下』」に会場を移し開催しました。料亭の名残を留める畳敷きの大広間で行われたポスター研究発表では計18件の研究発表がありました。特に注目したのが大学教員や大学院生に混じって発表していた学部生の研究レベルが極めて高かったということです。本大会では東北工業大学、公立はこだて未来大学、秋田大学の学部生が発表を行いました。研究内容やプレゼンテーション技術が充実しており、目を見張りました。次のプログラムとして秋田の伝統工芸職人として活躍されている佐藤房雄さん（木目金）と千貝弘さん（銀線細工）から作品紹介・解説をしていただきました。秋田で脈々と受け継がれている工芸技術や「用の美」を目の当たりにし、地域におけるものづくりを学び、考えるきっかけとなりました。引き続き秋田川反芸者の伝統を継承する「秋田舞妓」による演舞を鑑賞、秋田の芸術文化の一端を垣間見ることができました。本大会最後のプログラムとして、研究発表の枠にとらわれずに自由な視点で自らのデザインに関する考えを発表するライトニングトークを開催し、本学会の会員だけでなく地域で活躍されている民間、個人事業主の方も含めた計10件の報告が行われました。地域の諸課題、デザインと生活者との関係など、地域とデザインを取り巻く今日的なリアルな実情を知ることができました。

わずか2日間の日程の中にたくさんのプログラムを盛り込んだ大会でしたが無事、盛況裏に終えることができました。地域でのデザインの役割とは何か、そしてその課題の解決に向けてどのような活動が必要か、ということを考えさせられた2日間でした。なお、本大会には本学会の会員のほか、地域で活動している様々な分野の方々が参加されておりました。文末にはありませんが、本大会に参加いただいた皆様、そしてご協力をいただいた方々に改めて感謝の意を表します。

第9回第1支部大会実行委員会 石井宏一（秋田大学）
第1支部支部長 横溝賢、副支部長 柚木泰彦



今井氏による基調講演



ポスター研究発表の様子



千貝弘さん（銀線細工）の話を聞く参加者



秋田舞妓の演舞



大会参加者の集合写真

当学会では、会費の自動引き落としが義務付けられております。すでに、半数以上の会員の方にご利用いただいておりますが、まだ登録がお済でない会員の方は、登録手続きをされますよう、お願い申し上げます。また、口座引き落とし依頼書がお手元にない方は、本部事務局へご請求ください。

2019年度の年会費引き落としは、5月7日付けにて引落をさせていただきます。

宜しくお手配くださいます様お願い申し上げます。

本部事務局

第3支部活動報告

1. 第3支部研究発表会・懇親会

平成30年度第3支部研究発表会は2019年3月10日に名古屋市立大学桜山キャンパスで開催されました。14回目となる本研究発表会には、口頭発表18件、ポスター発表17件、参加者60名を超え、活発な論議を交えて盛大な研究成果を挙げました。学生の演題を対象とする「優秀発表賞」も設けられ、口頭発表では名古屋大学馬場祐太郎、福井工業大学のSutas Pornpan、ポスター発表では椋山女学園大学の川瀬彩華と川崎加奈代、計4名の学生が選出されました。最後の懇親会、わいわい歓談の中にこの4名の受賞者が表彰されました。

2. 第3支部報告集

支部会員日頃研究活動やデザイン活動の発表の場として、昨年度から発足しました「第3支部報告集」では、椋山女学園大学の滝本成人氏、名古屋学芸大学の中西正明氏、岡崎女子短期大学の町田由徳氏、計3名が投稿し、第3支部研究発表会概要集と一緒に出版されました。

3. 日本デザイン学会奨励賞第3支部

学生の表彰制度につきまして、第3支部所属各教育機関において優秀な研究・制作活動を行った学生・大学院生を対象とした「奨励賞」を平成25年度からスタートしました。学部・大学院各2名枠での会員推薦する形式によって、今年は数多くの学生が表彰されました。

4. 第3支部ウェブサイトの運営

第3支部その他の活動について、詳しい情報は「<http://jssd3b.jp/>」ご参照ください。

第5支部活動報告

第5支部では、これまで「研究発表会」と「学生デザイン展」の2つの支部活動を継続的に実施してきています。平成30年度は、2018年度日本デザイン学会秋季企画大会が九州大学大橋キャンパスで開催されたことから、研究発表数や参加者の増加、交流の活発化などを目指し、「研究発表会」については秋季企画大会と同時開催、「学生デザイン展」については同大会で開催された学生プロポジションに統合するかたちで実施しました。前者の結果を以下に報告します。

平成30年度 第5支部研究発表会

会場：九州大学 大橋キャンパス

日時：平成30年10月13日（土）9：00～12：00
10月14日（日）9：00～12：00

平成30年度第5支部研究発表会は、2019年度秋季企画大会の会期中の、10月13日（土）午前9時～正午、14日（日）午前9時～正午の2日間にわたり、口頭発表を3会場、ポスター発表を1会場で実施しました。今年度は、第5支部に加えて、第2支部、第3支部、第4支部からの学生、会員など、さらに民間企業からの参加もあり、口頭発表49件、ポスター発表3件の合計52件に上る研究発表が行われました。多種多様な研究テーマの研究発表のもと、多数の聴講者の来場もあり、活発な研究発表会を開催することができました。また、13日（土）午後6時から、平成30年9月に竣工した「デザインコモン（学修支援施設）／GEIKOラウンジ（食堂）」にて、平成30年度秋季企画大会との合同による懇親会を開催しました。70余名の参加があり、参加者相互に交流、研究内容等に関する情報交換や親睦を深めました。

例年とは異なるかたちでの開催となり、申し込みなどの事務手続きに際してご不便をおかけする面があったかと思いますが、お陰さまで成功裏に終えることができました。参加いただきました皆さま、運営に携わっていただきました皆さまに、改めまして厚く御礼を申し上げます。

第5支部支部長 田村良一



口頭発表の様子



ポスター発表の様子

藝術学関連学会連合シンポジウム会告

<http://geiren.org>

藝術学関連学会連合 第14回公開シンポジウム
アマチュアの領分

2019年6月8日（土）大阪 国立国際美術館

プログラム

- 13：00 主催者挨拶—藝術学関連学会連合会長 藤田治彦、国立国際美術館館長 山梨俊夫
- 13：10 全体趣旨説明 鈴木禎宏（意匠学会）
- 13：20 第1部 アマチュアが果たしてきた役割
歴史においてアマチュアが果たしてきた役割について考えます。異なる芸術分野ごとの事情の違いに気づくとともに、歴史においてアマチュアがいかなる存在であったのかについて理解を深めます。
- 13：25 報告1. 山崎稔恵（服飾美学会）
ドメスティック・クラフツ再考—ディラニー夫人のセンシビリティ
- 13：40 報告2. 石川義宗（日本デザイン学会）
農民美術におけるアマチュアの性質
- 13：55 報告3. 服部正（美術史学会）
「芸術家」になれなかった山下清
- 14：10 質疑応答
- 15：00 第2部 アマチュアの養成・発生とその問題
アマチュアをどう養成していくか、アマチュアはどう発生するか、そしてプロアマの構図をどう見直していくのかといった点について議論します。各芸術分野がいま現在かかえている問題について比較検討をおこない、未来の芸術文化の担い手について考えます。
- 15：05 報告4. 館野太朗（日本演劇学会）
地芝居におけるアマチュアの領分
- 15：20 報告5. 秋庭史典（美学会）
ポップカルチャーとしての「よさこい系」
- 15：35 報告6. 神野真吾（美術科教育学会）
美術の変化とプロアマの境界のシフトと社会的認知のズレ
- 15：50 質疑応答
- 16：30 自由討論 学会とアマチュアとの微妙な関係
専門家集団である学会はアマチュアについて真剣に語ってきたでしょうか。現実においてプロはどれほどアマチュアと区別されるのでしょうか。芸術文化の根本にかかわる問題に切り込みたいと思います。
- 17：25 閉会挨拶—藝術学関連学会連合副会長 貫成人

（小林昭世）

Design シンポジウム会告

<http://jssd.sakura.ne.jp/ds2019/>

■会期：2019年11月16日（土）～17日（日）

■会場：慶應義塾大学 日吉キャンパス

（〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1）

■共催：日本デザイン学会（幹事学会）、日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、日本建築学会、人工知能学会

■協賛（予定）：The Design Society、横断型基幹科学技術研究団体連合、International Association of Societies of Design Research、意匠学会、基礎デザイン学会、芸術工学会、道具学会

■趣旨：

現在、人々の生活、社会、産業、環境を取り巻く課題は高度化・複合化しており、縦割りの専門分野ごとのアプローチでは対応が困難となっています。そのため、複数の専門分野が横断的に連携し、課題の分析（analysis）に加えて、課題を解決する新たなモノやコトの総合（synthesis）を行なう設計やデザインの研究や教育が非常に重要となっています。

以上の背景から、日本デザイン学会、日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、日本建築学会の5学会は、「設計」や「デザイン」を包含する上位概念としての“design”を対象としたシンポジウムを2004年7月に開催、その後、人工知能学会を加えた6学会共催による隔年のDesignシンポジウムを、多様な参加者による活発な議論の場として継続的に開催してきました。一連の経緯のもと、この度、“design”に関して分野横断的、学術的、実践的に取り組む場として、一般講演、特別講演、パネルディスカッションからなるDesignシンポジウム2019の開催を企画いたしました。様々な分野の研究者、設計者、デザイナー、技術者、学生など、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

■一般講演募集：

発表形式は口頭発表を基本とします。一般講演の採否、プログラム編成はDesignシンポジウム2019運営委員会にご一任ください。

■一般講演申込方法：

ホームページ（<http://jssd.sakura.ne.jp/ds2019/>）に記載されている、登録フォームからお申込みください。

■申込期限：2019年6月3日（月）

■Webページ：

シンポジウムの詳細は、Designシンポジウム2019ホームページ（<http://jssd.sakura.ne.jp/ds2019/>）上に掲載しますのでご覧ください。

（小林昭世）

会員の移動

◆2018年度4回理事会 2018.10.13

新入会

正会員5名（内海外会員1名）

市原 恭代 伊藤 俊樹 丹羽 あや 福島 秀哉
Chen, Hsiu-Tsu

学生会員1名

堀田 里佳

退会

正会員1名

宮川 友子

学生会員1名

高山 翔矢

◆2018年度3回運営委員会 2018.12.15

新入会

正会員5名

阿久井康平 伊藤慎一郎 川口 貴弘 玉盛淳一郎
田村 基

学生会員8名（内海外会員4名）

青木 英明 小池 愛 徳島 泰 宮崎 愛弓
姜 澎 林 聖桓 梁 一誠 Chen Li

退会

正会員4名

市原 増夫 永野 朗夫 藤原 俊樹 藪 亨

年間購読会員2件

岩手県立大学メディアセンター
大東文化大学図書館逐次刊行物係

◆2018年度5回理事会 2019.03.09

新入会

正会員16名（内海外会員3名）

阿部 卓也 江嶋 大地 亀和田慧太 川瀬 真弓
高田 厚 土屋 真 深津 裕子 間瀬 正彦
松本 健吾 三成 啓太 三輪 泰生 向井ひなの
森 眸美 Hung-Ken Lee 洪 珮芬 宋 誌凱

学生会員 8名 (内海外会員 2名)

川野江里子 佐藤 拓海 敷根 伸光 西嶋 里紗
橋本 未来 森本創一朗 Yanpanyanon Sakeson

KAN, CHIEN-YU

退会

正会員26名

大竹美知子 大縄 茂 岡寄 均 岡本 文子
加城貴美子 川間 哲夫 木嶋 彰 清川 直人
久保田恵美子 熊谷 圭介 齊藤 雅士 澤田 克之
鈴木三十志 大黒雄二郎 田中 正彦 難波 知子
西中川 京 藤田 治彦 本間 雅成 松前あかね
丸谷 彰 村田 佳奈 村松 俊夫 森下 眞行
山本 佐恵 世ノ一善生

学生会員 8名

奥村美奈代 鈴木英怜那 中辻 七朗 永野 克己
西垣江利子 向井志緒子 安田 創 若杉 慈円

献本御礼

◆献本

「公衆サウナの国フィンランド」(株) 学芸出版社
「ともに生きる地域コミュニティ」東京電気大学出版局
「研究開発テーマの価値評価」(株) 言視舎
「DVD：朽木村針畑の生活記録1～8」「スベホウキ」「ハル日記」針畑生活資料研究会
「パウハウスの人々」(株) みすず書房

◆機関誌

「デザイン理論 意匠学会編 73号」意匠学会、2019年1月
「JAGDA 学生グランプリ2018」JAGDA 学生グランプリ委員会、2018年9月
「DNP文化振興財団 学術研究助成紀案 Vol.1」公益財団法人DNP文化振興財団、2018年12月
「日本オフィス学会誌 2018 vol.10 no.2」日本オフィス学会、2018年11月
「GK Report 2018 No.34」GKデザイングループ、2018年10月
「第34回 ファジィシステムシンポジウム2018」日本知能情報ファジィ学会、2018年9月
「TAMABI NEWS 78～80」

